

2 基本構想の策定にあたって

宇部市石炭記念館は、日本初の石炭をテーマにした博物館施設として、1969年(昭和44年)11月1日に開館しました。

「宇部市発展の礎となった石炭が、当地にもたらした多大な恩恵に感謝し、幾多の貴重な文献器材を整備して、その歩みを永く後世に伝える」ことを目的に誕生した石炭記念館では、山口炭田(宇部炭田・大嶺炭田)に関連する炭鉱資料の収集や調査研究を進め、展示内容の充実や山口炭田史の伝承に力を注いできました。石炭記念館の収蔵品は、2007年(平成19年)、経済産業省の近代化産業遺産に選定されています。

石炭記念館の上部にそびえる展望櫓は、かつて市内にあった東見初炭鉱で閉山まで活躍した豎坑櫓を移設し、展望台として再利用したもので、宇部に残された数少ない炭鉱遺産です。また、豎坑櫓だった施設に上ることができる全国的にも珍しい建造物として、多くの来館者に親しまれています。



しかし、開館から50年以上が経過し、建物や設備の老朽化が進むなか、石炭記念館の「今後のありたい姿」を検討する時期に来ています。

このため、2023年(令和5年)2月、有識者や市民等で構成する「宇部市石炭記念館あり方検討委員会」(以下、「検討委員会」という。)を設置し、4回にわたる委員会での議論を経て、同年10月31日、「宇部市石炭記念館のあり方に関する提言書」(以下、「提言書」という。)をいただきました。

検討委員会の提言書では、「石炭記念館を恒久的な価値ある施設と位置付け、新たな時代にも十分耐えうる機能をもった施設に生まれ変わることが重要」との意見をいただいています。

本基本構想は、石炭記念館が単なる展示場としての施設にとどまることなく、新しい時代のニーズに即した機能を有する施設として継続していくために、今後の石炭記念館が果たすべき役割や機能について取りまとめたものです。